

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270400229		
法人名	社会福祉法人すみれ会		
事業所名	すみれの里		
所在地	青森県黒石市馬場尻南61-5		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・園庭にある足湯にいつでも入れる。 ・園庭にある観音様にいつでも参詣ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>敷地内にある特別養護老人ホームとデイサービスにおいて長年サービス提供をする中で、認知症高齢者の増加が目立つようになったことから、グループホームの設立に至っている。</p> <p>法人として長年地域との交流を深め、協力体制を構築しており、グループホームもまた地域との交流を大切にしつつ、法人内施設との連携を密にしながら、利用者が安心して暮らせるように取り組んでいる。</p> <p>管理者及び職員は利用者に対して優しい言葉遣いで、温かみのある接し方ができるよう、互いの気づきをオープンに話し合いながら、日々のケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が地域密着型サービスの役割を理解しており、理念に反映している。	地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を掲げ、玄関やリビング等、目に付きやすい場所に掲示している。管理者は日々の状況に目配りし、必要時には個別に振り返りの機会を設けながら、ホーム全体で理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、誕生会で交流を図っている。	コロナ禍前は地域の夏祭りや運動会に積極的に参加し、文化祭には利用者の作品を展示する等、地域との交流を図っていた。公民館へのホーム便り掲示は継続しており、今後はコロナの状況を見ながら、行事への参加も検討していく考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者のプライバシーに配慮した上で実習生を受け入れており、見学者や実習生に対して、認知症状のある方への支援方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、報告や情報交換を行っている。また、自己評価及び外部評価の結果を報告している。	コロナ禍での運営推進会議は書面開催となっていたが、今年6月からは対面での会議を再開している。ホームからは利用者の生活状況やホームの取り組み等を報告し、メンバーから様々な情報提供や意見・提案をいただき、サービスの質向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡会に参加し、行政との協力関係を築いている。また、外部評価結果を提出し、連携を図りながら質の向上に取り組んでいる。	市の担当課職員が毎回運営推進会議に参加し、意見交換を行っている他、ファックス等でも様々な情報提供があり、協力関係を構築している。また、運営推進会議の議事録や自己評価及び外部評価結果も提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	園内研修を通じて身体拘束の内容や弊害を理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等の適正化のための委員会を3ヶ月に1回開催し、会議録を回覧して全職員で共有を図っている。ホームでは毎月様々なテーマで園内研修を行っており、身体拘束についても勉強する機会を設け、職員の理解を深めながら、身体拘束は行わない姿勢で日々のケアに取り組んでいる。また、外出傾向を察知した時は職員と一緒に園庭を散歩している他、無断外出時に備え、隣接施設と連携したり、警察署にも協力をお願いしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修を通じて虐待について理解を深めており、虐待を行わないケアを心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修で成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書を用いて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を用意したり、入居者との会話の中で、意見や要望を聞き出している。また、月1回、入居者の様子や健康状態を手紙で報告している。	玄関に意見箱を設置している他、家族がホームを訪れた時は利用者の状況を報告し、意見を聞いている。毎月ホーム便りと一緒に担当職員からの手紙を同封する他、日々の生活で変化があった時はその都度電話で報告している。また、利用者からも日々の会話を通して、遠慮なく意見や要望を出していただくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の運営会議、ケース会議において、職員との話し合いの場を設けている。	職員は毎日のミーティングやケース会議で自由に意見交換を行い、必要時には業務の合い間等を利用して、管理者に相談できる環境を整えている。また、月1回、法人内施設合同の運営会議に管理者が出席しており、職員から出された意見等を話し合い、ホームの運営やサービス提供に反映させる仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	定期的に健康診断や腰痛検査を実施している。また、業務の多忙さや人材不足、労働環境について、その都度改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や園内研修を通じて、職員の質の確保、向上に向けて育成を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業連絡会を通じて勉強会を行う等、交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接調査時に家族の希望を聞き出し、ケアプランに反映させている。また、安心できる雰囲気作りを心がけたり、マンツーマンでの時間を多く設け、信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接調査時に家族の希望を聞き出し、家族の思いを受容して、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には本人や家族のニーズに対して何が必要かを見極め、柔軟に対応し、実行に移している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活では入居者それぞれが役割を持ち、生き生きとした生活を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止め、一緒に入居者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行ったり、友人等との連絡を取り持つ等、支援を行っている。	玄関先でビニールシートを挟んで面会してもらおう等、工夫をしながら関係継続の支援に取り組んでいる。また、馴染みの美容院や買い物等、個別の希望があった時は家族に相談し、できるだけ希望に沿えるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割活動や趣味活動等、様々な活動を通じて、入居者同士が協力して支え合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談や支援に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から希望や意向等の情報収集を行い、把握するように努めている。	日常会話の中から様々な希望を聞くことが多いが、話しながら利用からは居室清掃時や入浴時等、1対1になる時にゆっくりと話を聞き、思いや希望の把握に努めている。また、家族からも情報をいただき、ミーティングや連絡ノート、タブレットを利用して情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等について本人や家族から情報収集を行い、把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態や生活リズムを把握しており、一人ひとりの能力に合った活動や作業を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意向を聞いた上で、職員間で十分に話し合い、介護計画を作成している。	日頃からケアを通して得た気づきを全職員で共有している他、利用者や家族の意見・希望も参考に、個別の介護計画を作成している。また、6ヶ月の期間設定で、定期的にモニタリングと評価を行っている他、状態変化等により必要な時は期間内でも随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のミーティングや介護記録により情報を共有し、モニタリングに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、今までの暮らしを継続できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設とあわせ、防災訓練時に消防署や地域の方々の協力を仰いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医療機関の医師に訪問していただいている他、入居者の希望により、かかりつけの医療機関への受診も支援している。	入居時にこれまでの受療状況を把握しており、可能な範囲で家族の協力を得ながら、希望に沿った受診支援に取り組んでいる。月1回、協力医療機関の医師による往診がある他、日中は隣接施設の看護師の協力を得ることができ、夜間急変時に備えたオンコール体制も整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の身体に変化が見られた時は併設施設の看護職員に報告し、協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は入院状況を聞き出し、グループホームでのケアが可能である場合は、早期退院に向けて、家族も含めて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に介護及び看取り介護の対応について説明し、同意を得ている。重度化が予想される場合は家族と話し合い、併設の特別養護老人ホームへ入居していただいている。	入居時にホームの方針を利用者及び家族に説明し、同意を得ている。また、利用者の心身の状況変化を見極め、ホームで生活していただくのが難しいと判断した時点で随時家族と話し合い、意思統一を図った上、隣接する特別養護老人ホームに住み替えできるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成しており、園内研修でも急変時や事故発生時の対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。また、総合防災訓練の際は消防署や地域の方の協力を得ている。	年1回、隣接施設と合同で総合防災訓練を行う他、ホーム独自に日中・夜間を想定した避難訓練を毎月行っている。災害時に備え、石油ストーブや卓上コンロ、自家発電機を準備しており、避難訓練の時に発電機の使い方を実践している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した言葉がけや、さり気ない介助を行っている。	利用者の尊厳やプライバシーに配慮した言葉遣い・対応を心がけ、馴れ合いにならないように注意している。また、理念に掲げた「家庭的であたたかく、自由な生活を送れるケア」の実現に向けて、利用者一人ひとりのペースに合わせ、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事や活動への参加、決め事がある場合は常に入居者と話し合い、自己決定を促す場面作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、自由な生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事に参加する際は、入居者と一緒に衣服を選んだり、化粧を行い、おしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立の他、買い物で好きな物を買って食べたり、食事の準備や後片付けを一緒に行っている。	食事は隣接施設で献立作成・調理を行い、職員が運んできて盛り付けをし、必要時には食事形態にも配慮して提供している。また、利用者個々の状態や意向に合わせ、野菜の皮むきや後片付け等を手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がバランスの良い食事を献立に取り入れている。入居者の食事や水分摂取量も把握しており、個々の状態に合わせ、食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力量に応じて一緒に口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導により、排泄の自立を支援している。	利用者個々の時間毎の排泄状況を記録し、介助が必要な利用者には個々のパターンに合わせたトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。排泄動作が自立している利用者にも、さりげなく終わった後の状況確認を行い、日々の状況変化等を早期に把握できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動により自然排便を促しているが、便秘時には、個々に合わせた量の下剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は毎日実施しており、入居者の体調の変化や希望に応じて、柔軟に対応している。	ゆっくり入浴していただけるよう、一日の入浴介助を3人程度にし、基本的に一人週2回は入浴できるようにしている。拒否が強い時は無理に勧めず、利用者の体調や気分に応じて、翌日に変更する等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、適度な運動や活動を取り入れ、良眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの入居者が使用している薬の種類、用量を理解し、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握しており、趣味活動や役割活動に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日、園庭散歩と観音様への参詣を行っている。その他、買い物やドライブで気分転換を図ったり、行事に参加している。また、家族の協力を得て外出する機会を設ける等、支援を行っている。	広い園庭には散歩コースが整備され、観音様にお参りしたり、天然温泉の足湯を楽しむことができる環境にあり、日常的に外に出る機会を設けている。利用者には馴染みの場所を聞き、無理のない範囲でのドライブを計画しているが、コロナ禍においては車に乗ったまま景色を楽しんでもらう等、十分に感染対策をして支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事務室で預かっており、必要な場合は本人へ渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮し、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保ち、共有空間は不快な音・光に注意している。玄関や廊下に生け花を飾り、季節感を取り入れている。	リビングの吹き抜けから日射しが入り、シェードで和らげている。床暖房とパネルヒーターによる暖房の他、リビングにはエアコンもあり、加湿器や扇風機等も適宜利用して、快適な環境作りに努めている。また、リビングには季節毎の手作り作品、玄関には生け花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごしたり、リビングで入居者同士が思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している馴染みの物を持って来てもらうよう、家族に働きかけ、協力を得ている。	入居時、家族には馴染みの物を持って来てもらうようお願いしており、衣装ケースやテレビ、飾り物等、様々な物が持ち込まれている。持ち込みが少ない場合は、利用者の好みに合わせ、誕生会の色紙や写真を飾る等し、自分らしく自由に過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱するような表示等はせず、入居者の身体状況の変化に応じて、その都度環境改善を行っている。		